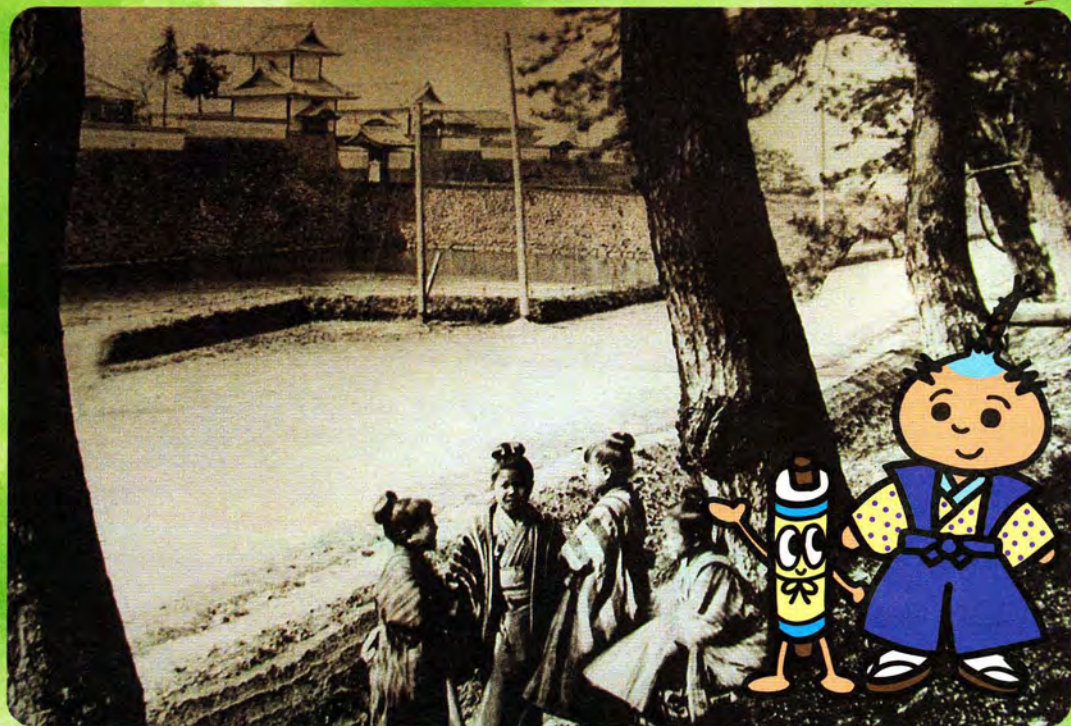


子どものための

どくしょねんきねん  
子ども読書年記念



かなざわ てん  
金沢のれきし展



めいじ いしかわもん ふ きん ほり  
明治40年(1907)の石川門付近・堀には水も見えるね

場 所 ◆金沢市立玉川図書館近世史料館  
金沢市玉川2-20

期 間 ◆2000年7月20日(木・祝)～9月17日(日)

開館時間 ◆10時～19時(土日祝は17時まで) 月曜休館

てん じ しず  
展示は静かに  
見ようね





?

かなざわ

## 金沢はいつごろできたの

まえだ としいえ  
前田 利家

みんながいる<sup>かなざわ</sup>金沢は、4,000年くらい前から人が住んでいたんだ。今の金沢の町のもとを作ったのは、尾張国<sup>おわりのくに</sup>（愛知県<sup>あいちけん</sup>）からやってきた前田利家<sup>まえだとしいえ</sup>（1538－1599）という人なんだよ。天正11年<sup>てんしやう</sup>（1583）に金沢<sup>かなざわ</sup>に来てから、江戸時代<sup>えどじだい</sup>が終わるまでの約280年のあいだ、前田家が金沢を中心に加賀・能登<sup>かがのと</sup>（石川県<sup>いしかわけん</sup>）、越中<sup>えちゅう</sup>（富山県<sup>とやまけん</sup>）を治めたんだ。

かなざわじやう  
前田家の住んだ金沢 城  
いしかわけん  
（石川県が残っているよ）

?

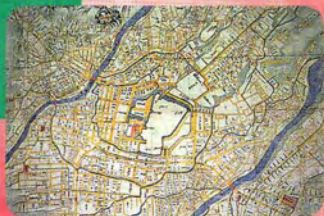
えどじだい

かなざわ

## 江戸時代の金沢はどんなだったのかな

江戸時代<sup>えどじだい</sup>の金沢<sup>かなざわ</sup>は、犀川<sup>さいがわ</sup>と浅野川<sup>あさのがわ</sup>にはさまざまな地域<sup>ちいき</sup>をさして今よりずっと小さかったんだ。その中に武士<sup>ぶし</sup>、商人<sup>しょうにん</sup>、職人<sup>しやくにん</sup>などさまざまな人が住んでいて、そのころの日本では江戸<sup>えど</sup>（東京<sup>とうきやう</sup>）、大坂<sup>おおさか</sup>（大阪<sup>おおさか</sup>）、京都<sup>きやうと</sup>などに続く大きな町だったんだ。

金沢<sup>かなざわ</sup>のように城<sup>しろ</sup>を中心に発達した町を城下町<sup>じやうかまち</sup>というんだよ。

えどじだい さいがわおほし  
江戸時代の犀川大橋えどじだい かなざわのず  
江戸時代の金沢図



## ? 加賀百万石って何のこと

武士は給料をお米でもらっていたんだ。だから、大名の領地も「石」という米の単位であらわしたんだ。前田家は、約百万石の米を取れる土地を治めていたことになるのでこのように呼ばれたんだよ。

1石は、約180リットル

(2リットルのペットボトル約90本分)



## ? 武士はどうなったのかな



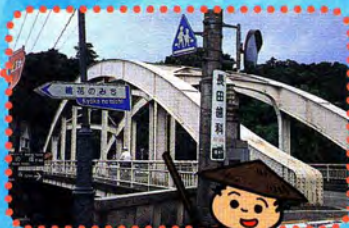
江戸時代が終わると、武士という身分がなくなり、武士の家はたいへん困ったんだ。だから、みんないろいろな職業について働いたんだけど、失敗する人もたくさんいたんだ。

## ? 明治になって人々の生活はどうか変わったのかな

外国（特にヨーロッパやアメリカ）の文化が急に入ってきて、生活が大きく変わったんだ。ちょんまげをやめたり、和服から洋服にか変わったのも明治になってからなんだよ。



明治のはじめのころの天神橋(よみがえりばし)のようす。和服の人も洋服の人もいるね。



いまの天神橋





## ？交通はどのようにかわったのだろう

それまで、人々は歩いたり、かごや馬を使って移動していたんだけど、明治になると、鉄道がしかれて遠くまで早く移動できるようになった。

人力車や自転車が使われたのもこのころなんだよ。

大正には自動車も登場して陸上の交通は大きくかわったんだ。



かご



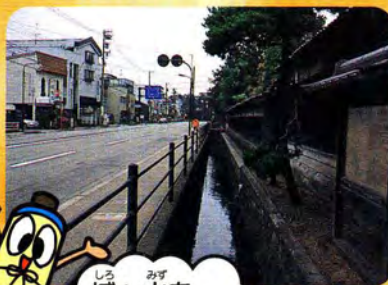
蒸気機関車 (明治37年)

## ！金沢の用水

用水は城を守ったり、農業用、工業用、そして生活用などを目的として掘られたんだ。金沢にはたくさんの用水が流れているぞ。



大野庄用水



辰巳用水



鞍月用水



# 金沢れきし年表

## 江戸時代

てんしやう 天正11年1583 前田利家金沢城主となる。  
けいちやう 慶長5年1600 前田利長の領地120万石あまりとなる。  
7年1602 金沢城の天守閣が焼失する。  
15年1610 金沢城の外惣構ができる。  
かんえい 寛永8年1631 金沢の大火がおこる。  
16年1639 富山藩、大聖寺藩ができる。  
かんぶん 寛文10年1670 村御印が各村に交付される。  
じやうきやう 貞享2年1685 5代藩主綱紀が京都の東寺に書箱をおくる。

げんろく 元禄3年1690 加賀藩8家の制ができる。  
きやうほう 享保4年1719 稲生若水という学者に博物辞典をつく  
らせ、将軍にさしあげた。  
ほうれき 宝暦5年1755 藩が銀札という貨幣をつくらせた。  
きやうわ 享和3年1803 伊能忠敬が加賀の海岸などを測量する。  
ぶんせい 文政5年1822 藩主の隠居所竹沢御殿ができる。  
めいじ 明治元年1868 明治維新。武士の社会が終る。

## 明治・大正時代

めいじ 明治元年1868 9月:年号が明治となる。  
2年1869 11月:はじめて牛肉が売られる。  
3年1870 9月:すべての人が苗字をつけるようになる。  
11月:6カ所に小学校がつくられる。  
4年1871 5月:人力車が登場した。12月:金沢最初の新聞(開化新聞)が発行される。  
5年1872 2月:金沢県が石川県と改められる。12月:太陽暦が使われ、この日が明治6年1月1日となる。この年、最初の写真館ができる。  
7年1874 2月:兼六園が公園となる。  
9年1876 日本最初の常設博物館(勸業博物館)ができる。  
10年1877 この年、最初の洋食屋(酔紅館)が開業。  
この年、はじめて西洋菓子(尾張町七日堂)が売られる。  
21年1888 3月:上安原で日本最初の耕地整理がおこなわれる。  
22年1889 4月:市制がしかれ、金沢区が金沢市となる。

30年1897 6月:活動写真がはじめて上映される(香林坊福助座)。  
31年1898 4月:小松・金沢間に汽車が開通し、金沢駅ができる。  
33年1900 6月:金沢に電灯がともる。  
34年1901 3月:電話が開通した。  
44年1911 6月:百間堀が埋め立てられ、道路が開通した。  
たいしやう 大正元年1912 7月30日:年号が大正となる。  
2年1913 7月:金沢ではじめて飛行機が飛んだ。  
8月:市内最初の乗り合い自動車(タクシー)の営業がはじめられる。  
8年1919 7月:市内電車が開通した。  
12年1923 6月:第1回金沢市祭がおこなわれる。  
11月:金沢で最初の百貨店(宮市百貨店)ができる。  
14年1925 5月:ラジオ放送の市民試験がおこなわれる。





# 近世史料館の案内図です

ここが1階



ここが入口だ



?

古文書って何だろう

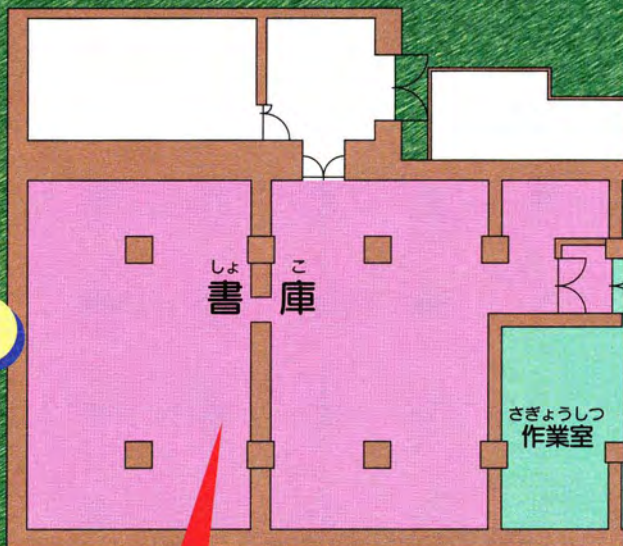
古い時代に書かれた文書のことをさすけど、ここでは江戸時代  
のものがたくさんあるよ。



?

気をつけてることはある

紙だから、やっぱりこわいのは  
火事だね。



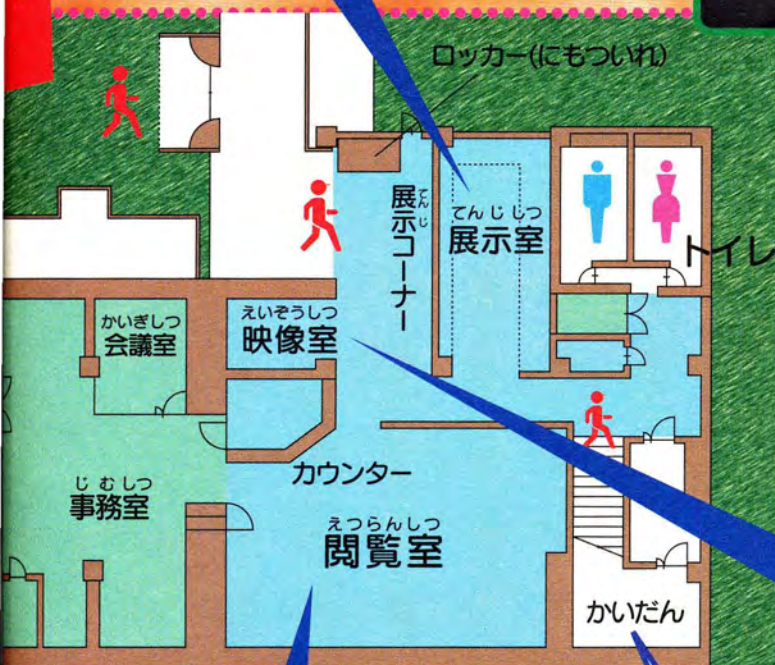
ここに古文書  
が入っているんだ



てんじしつ  
展示室



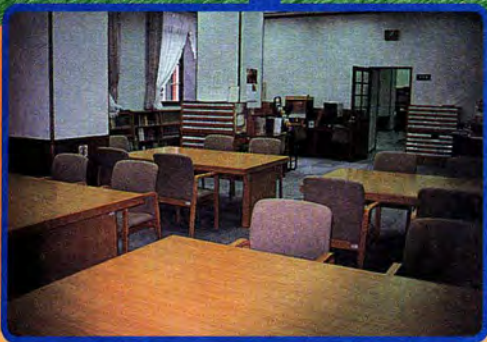
となりは  
たまがuchi 公園だ  
玉川公園だ



ビデオを見てね



2階にも  
てんじしつ  
展示室が  
あるんだ



こ ち ゃ  
ここで古文書を  
見ることができるよ



きんせいしりょうかん

## 近世史料館でのきまりごと

- ★本や史料<sup>しりょう</sup>は大切にあつかう
- ★さわいだり走ったりしない
- ★飲んだり食べたりしない



きんせいしりょうかん

## 近世史料館からのお知らせ

てんじ　ないよう　かなざわ　れきし  
展示の内容や金沢の歴史について  
わからないことがあればいつでも  
きがる　でんわ  
気軽に聞いてね、電話でもいいよ。



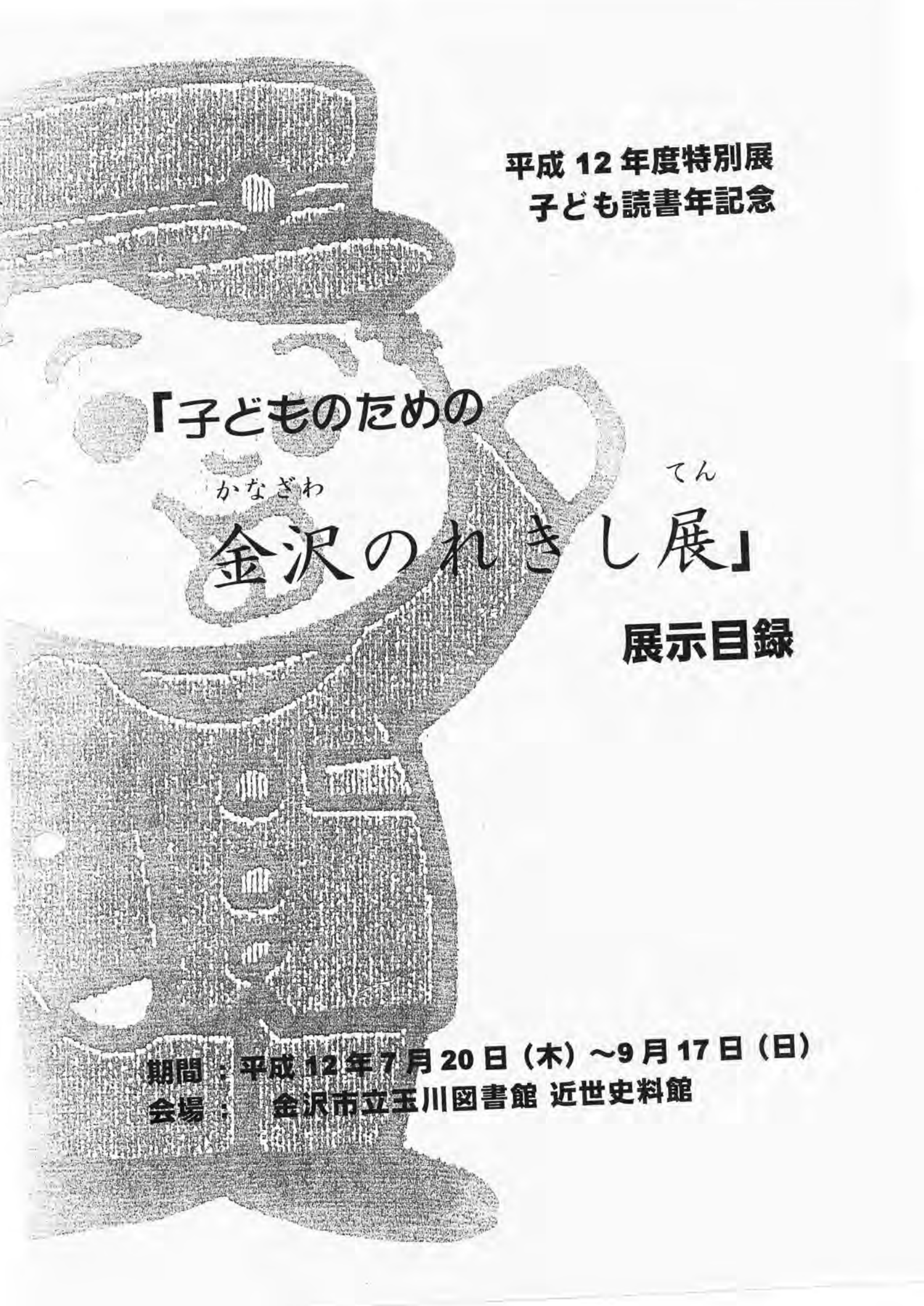
### 金沢市立玉川図書館近世史料館

金沢市玉川2-20 ☎076-221-4750

期　　間　2000年7月20日(木・祝)～9月17日(日)

開館時間　10時～19時(土日祝は17時まで) 月曜休館





平成 12 年度特別展  
子ども読書年記念

「子どものための

かなざわ

金沢のれきし展」

てん

展示目録

期間：平成 12 年 7 月 20 日（木）～9 月 17 日（日）  
会場：金沢市立玉川図書館 近世史料館



かなざわじょうさんかい お やぐら ず  
・金沢 城 三階御 櫓 図

三階櫓は、慶長7年(1602)に焼けた天守閣にかわるものとして、翌年に建てられたものです。しかし、これも宝暦9年(1759)には燃えてしまいました。  
これは、江戸時代に書かれたやぐらの図を拡大し、色を付けたものです。

だいまようぎようれつ ず え ど じ だい  
・大名 行列 図 (江戸時代)

山越図 : 大名行列が山を越えているところです。曲がりくねった道を苦労して行進しているところや、馬があばれたりして困っているようすが書かれています。

休息図 : 川を越えて一休みしているところです。たばこを吸ったりお茶を飲んだりしています。

川越図 : 大名行列が川を渡るところです。なわで船を引いたり、こいで渡ったりしています。  
馬はどうやって渡るのでしょうか。

通行図 : 大名行列が町に入ったところです。道端の人が土下座しているのが見えます。

この行列図は、江戸時代の参勤交代のようすを書いたものです。

さんきんこうたい  
参勤交代とは

江戸幕府が大名に1年おきに江戸に住むように命令しました。このときの行き来を参勤交代といいました。

だいまようぎようれつ え まき え ど じ だい  
・大名 行列 絵巻 (江戸時代)

上 : これは、大名行列を行進の順番にくわしく書いたものです。

ずいぶんたくさんの人が歩いていたのですね。

下 : これは、戦に行く時の行進を絵に書いたものです。

とても楽しい絵で書かれています。

いぬち よまるぎみの ず え ど じ だい  
・犬千代丸君之図 (江戸時代)

前田利家の15、6才の時の像を江戸時代に絵にしたもので戦で活躍して帰るところです。  
この絵の元になるものは、岸駒という加賀藩に仕えた絵師が書いたと言い伝えられています。  
その後、多くの絵師が写しを書いたため、似たような絵がたくさんあります。

じんがさ え ど じ だい  
・陣笠 (江戸時代)

もともとは足軽などが、戦の時に使ったものですが、江戸時代には、野外に出向く時などに武士がかぶりました。



かなざわじょうない す

・ 金沢城内の図

え ど じ だい かなざわじょう き ちよう ず の う み  
江戸時代の金沢城のようすが描かれた貴重な図です。この図では、能を見ているようすが  
えが かく なか ひと かお  
描かれています。ところが、柵の中の人の顔がなぜかとちゅうまでしか書かれていません。  
かく なか ひと しょうたい ゆうふく ちようにん の う か ひと  
この柵の中の人たちは、招待された裕福な町人や農家の人たちです。

え ほんせつきようだん え ど じ だい  
・ 絵本 雪鏡談（江戸時代）

え ど じ だい じょうちゆう か え なに ねが  
江戸時代の城中のようすを書いた絵です。何かお願いをしているのでしょうか。

かなざわじょう え す え ど じ だい ちゆう き  
・ 金沢城 絵図（江戸時代 中期）

かなざわじょう なん ど か さい ほうれき おお か じ まえ  
金沢城は何度か火災にあっています。これは宝暦9年（1759）にあった大火事がおこる前  
しろ ず おお しろ  
の城のようすがわかる図です。とても大きい城のようすがわかりますね。

ちようけ お や しきならびに ご がちゆう の す  
・ 長家御屋敷 並 御家中之図（天保3年）

ちようけ げんざい たまがわ と しょかん ば しょ す まえ だ け け らい  
長家は現在の玉川図書館の場所に住んでいた、前田家の家来です。

ちようけ や しき ちようけ ぶ か す まち か  
これは、長家の屋敷とその長家の部下が住んでいた町のようすを書いたものです。

かなざわけんろくえんの の す  
・ 金沢兼六園之図

けんろくえん いま おお え ど じ だい お ごろ い が い あたら  
兼六園が今のような大きさになったのは江戸時代の終わり頃ですから、意外と新しいもの  
ず え ど じ だい けんろくえん き ちよう ず げんざい き おお  
です。この図は江戸時代の兼六園のようすがわかる貴重な図ですが、現在のよりも木が多い  
のがわかります。

かみしも

・ 袴

ぶ し し ご と ちい だい  
かみしもは、武士が仕事をするときのスーツのようなものです。小さいかみしもは12代  
はんしゅ まえ だ なりなが こ み おお ゆうりよく ぶ し み  
藩主、前田斉広が子どもころに身につけたもの、大きいかみしもは、有力な武士が身に  
つ  
付けたものです。

か よう ぶ し まちさいけん ず きようほう  
・ 加陽武士町細見図（享保 19年〈1734〉）

え ど じ だい かなざわ ち ず か わ みち す ひと な まえ か  
江戸時代の金沢の地図です。川や道といっしょに住んでいる人の名前もくわしく書いてあり  
か わ ようすい こ ま か  
ます。川や用水なども細かく書いてありますね。

さいがわがわがみしばい ご や けいがん ず え ど じ だい ちゆう き  
・ 犀川川上芝居小屋景観図（江戸時代後期）

むかし かなざわ さいがわ あさの がわ しばい ご や  
昔の金沢は、犀川や浅野川のそばの芝居小屋があつてたいへんにぎわっていました。  
ず げんざい じょうなん ふ きん しばい ご や みぎ しばい  
この図は、現在の城南1～2丁目付近にあった芝居小屋のようすです。右が芝居をやった  
おお げきじょう ひだりがわ りょうり や しょくどう りょかん しょうめん い ど  
大きな劇場、左側は、料理屋（食堂）や旅館がならんでにぎわっています。正面には井戸  
いけ み  
やため池が見えます。



でんしゃ がいすうけん  
・ 電車の回数券

かなざわ し ない はし でんしゃ かいすうけん かいすうけん うら しょうてん こうこく か  
金沢市内を走っていた電車の回数券です。回数券の裏には、いろいろな商店の広告が書かれています。

かなざわはつれつしゃ し かんひょう しょうわしよ き  
・ 金沢発列車時間表（昭和初期）

かなざわ えき しゅつぱつ とうちやく き し や じ こくひょう むかし かなざわ えき しゅつぱつ  
金沢駅から出発したり、到着したりする汽車の時刻表です。昔 は、金沢駅を出発したり  
とうちやく き し や すく  
到着する汽車は、とても少なかったことがわかります。

し ないでんしゃけいろ ず しょうわ ころ  
・ 市内電車経路図（昭和40年頃）

かなざわ し ない でんしゃ はし ろ せん ず でんしゃ ろ せん はし こと  
金沢市内に電車が走っていたころの路線図です。その後、電車の路線はバスが走る事になりました。

しょうわ  
・ マッチ（昭和）

しょうてん いんしよくてん せん でん こうこく きやく わ  
マッチは、商店や飲食店の宣伝のために、広告をつけて客に分けられたりしました。いろいろなデザインがありますね。

ひきふだ めい じ たいしょう じ だい  
・ 引札（明治～大正 時代）

ひきふだ え ど じ だい めい じ たいしょう じ だい くば しょうてん せん でん  
引札とは江戸時代から明治、大正時代まで配られた商店の宣伝チラシのことです。おめでたい絵といっしょに店の名前などが書かれています。

ひきふだ  
・ 引札（うしのちち）

「うしのちち」とはなんのことかわかりますか。

佐々木：ㄥㄣㄣ

ちきゅう ぎ めい じ じ だい  
・ 地球儀（明治時代）

ちきゅう ぎ え ど じ だい すえ めい じ かなざわしゅっしん ようがくしゃおお や めい じ  
この地球儀は、江戸時代末から明治にかけての金沢出身の洋学者大屋 が明治  
5年(1872)に作ったものです。

かなざわ し がい の ず めい じ  
・ 金沢市街之図（明治26年）

めい じ じ だいなかごろ かなざわ し ち ず ころ し ない く わ  
明治時代中頃の金沢市の地図です。この頃は市内を八つの区に分けていたんだね。  
かなざわじょう ぐんたい はい  
金沢城のあとには、軍隊が入っているのがわかります。

かなざわこうえんかんぎょうはくぶつかんの ず めい じ  
・ 金沢公園勸業博物館之図（明治24年）

けんろくえん おこな はくらんかい え ず いま のこ たてもの  
兼六園で行われた博覧会の絵図です。今も残っている建物もあります。

かなざわけんろくえんの ず めい じ  
・ 金沢兼六園之図（明治31年）

けんろくえん いま おお え ど じ だい お ころ い がい あたら  
兼六園が今のような大きさになったのは江戸時代の終わり頃だから、意外と新しいんだよ



かなざわしょうてん ず え

・ 金沢商店図絵

めいじ じ だい かなざわ ゆうめい さか や くすり や わ が し や りょかん あつ  
明治時代に金沢で有名だった酒屋、薬屋、和菓子屋、旅館などを集めたものです。いろいろ  
しょうてん みせさき いま つづ しょうてん  
な商店の店先のようにすがよくわかります。今も続いている商店もたくさんあります。

でん わ き

・ 電話機

でん わ き めい じ はつめい か はつめい にほん つた  
電話機は明治9年(1876)にアメリカの発明家ベルによって発明されました。日本に伝わ  
めい じ いっぱん か てい ふきゅう しょうわ はい  
たのも明治なのだけど、一般家庭に普及したのは昭和に入ってからです。

かなざわ し しょくぎょうてん わ ちょう しょうわ

・ 金沢市 職業 電話帳 (昭和20年)

でん わ き ころ ふ つう か てい すく でん わ ばんごう みじか  
電話機は、この頃は、まだまだ普通の家庭には少なかった。電話番号も短いですね。

かなざわ し ちょうかん ず しょうわ

・ 金沢市 鳥瞰図 (昭和7年)

しょうわしょ き かなざわ えが ず ちょうかん ず とり め み けしき さ  
昭和初期の金沢のようすを描いた図。鳥瞰図とは鳥の目で見たとような景色を指します。その  
ころ あわがさきゆうえん ち み  
頃にぎわっていた栗ヶ崎遊園地を見ることができます。

ほうせん じ か ご

・ 宝泉寺駕籠

え ど じ だい かね も ちょうにん てら ひと つか い がい  
このかごは、江戸時代にお金持ちの町人やお寺の人が使ったかごです。意外と小さいです  
ね。



# てんじひん 展示品目録 もくろく

## 1. むかしの記録と図

いぬ ち よ まるぎみの ず  
犬千代丸君之図

かなざわじょうさんかいおやぐら ず ふくせい  
金沢 城 三階御櫓図 (複製)

かなざわじょう え ず え ど じ だいちゅうき  
金沢 城 絵図 (江戸時代中期)

だいみょうぎょうれつ え まき え ど じ だい  
大名 行列 絵巻 (江戸時代)

だいみょうぎょうれつ ず え ど じ だい  
大名 行列 図 (江戸時代)

か よ う ぶ し まちさいけん ず きょうほう  
加陽武士町細見図 (享保 19 年<1734>)

ちやうけ お や しきならびに ご ちやうの ず てんぽう  
長家御屋敷 並 御家中之図 (天保 3 年)

え ほんせつきやうだん え ど じ だい  
絵本 雪鏡談 (江戸時代)

さいがわかわかみしばい ご やけいかん ず え ど じ だいこうき  
犀川川上芝居小屋景観図 (江戸時代後期)

かなざわこうえんかんぎやうはくぶつかんの ず めい じ  
金沢公園勸業博物館之図 (明治24 年)

かなざわ し がいの ず めい じ  
金沢市街之図 (明治26 年)

かなざわけんろくえんの ず めい じ  
金沢兼六園之図 (明治31 年)

かなざわしょうてん ず え  
金沢 商店 図絵

ひきふだ めい じ たいしょう じ だい  
引札 (明治～大正 時代)

でんしゃ がいすうけん  
電車の回数券

かなざわはつれつしゃ じ かんひやう しょうわ  
金沢発列車時間表 (昭和6 年)

かなざわ し ちやうかん ず しょうわ  
金沢市 鳥瞰 図 (昭和7 年)

かなざわ し しょくぎやうでん わ ちやう しょうわ  
金沢市 職業 電話帳 (昭和20 年)

し ないでんしゃけい ろ ず しょうわ ごろ  
市内電車経路図 (昭和40 年頃)

## 2. むかしの物

じんがさ え ど じ だい  
陣笠 (江戸時代)

ちきゅう ぎ めい じ じ だい  
地球儀 (明治時代)

しやうわ しょき  
マッチラベル (昭和初期)

\* ランプ・あんどん・ろうそく 立て

でん わ き  
\* 電話機

かんぱん  
\* 看板

\* ラジオ・レコードプレーヤー

でんきゅう  
\* 電球

おき どけい  
\* 置時計

でんしゃ  
\* 電車 (ブリキ)おもちゃ

にんぎやう  
\* 人形セット・メンコ

もくば  
\* 木馬

かみしも  
\* 袴

ほうせん じ か こ  
\* 宝泉寺駕籠

せんたくいた せんたく き  
\* たらい・洗濯板・洗濯機

きやうたく  
\* 教卓

つくえ  
\* 机・イス

みんそくぶん か さいてん し かん  
\* 印は民俗文化財展示館からかりたものです

## 3. むかしの写真

めい じ しょき かなざわじょう  
明治初期の金沢城

う た まえ はすいけぼり いしかわもん めい じ  
埋め立て前の蓮池堀と石川門 (明治40 年)

さいがわおおはし かたまち めい じ  
犀川大橋から片町のながめ (明治40 年)

じやがっこうたいそうふうけい めい じ  
女学校体操風景 (明治41 年)

てらまち めい じ  
寺町からのながめ (明治42 年)

しんたてまちしょうがっこう めい じ  
新竪町 小 学校 (明治43 年)

えい わ よう ち えん めい じ じ だい ころき  
英和幼稚園 (明治時代後期)

もの しやしん  
のり物の写真

じやがっこう たいしょう  
女学校のようす (大正 2 年)

けんろくえんした たいしょう  
兼六園下 (大正 8 年)

おおゆき  
大雪のようす

ゆき かないわおうかん しょうわ  
雪の金石往還 (昭和 5 年)

かなざわえき しょうわ  
金沢駅 (昭和 7 年)

なんたんこくどう しょうわ  
南端国道 (昭和 8 年)

ゆきあそ かわあそ うみあそ しょうわ しょき  
雪遊び・川遊び・海遊び (昭和初期)

のうぎやう しょうわ  
農業のようす (昭和20 年)

こうつうせい り しょうわ だい  
交通整理 (昭和20 年代)

いし や ね みん か しょうわ  
石屋根の民家 (昭和30 年)

かたまち はし でんしゃ しょうわ  
片町を走る電車 (昭和40 年)